

平成 17 年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学工学部

評価委員会

平成 18 年 11 月

目 次

平成17年度教員の個人評価について.....	1
1 教員個人評価の実施状況.....	2
(1) 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など.....	2
(2) 教員個人評価の実施概要.....	3
① 評価組織：理工学部評価委員会、理工学部個人評価実施委員会.....	3
② 実施経緯、内容、方法等.....	3
③ 添付資料.....	5
2 理工学部学科・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員） が組織的に一丸となって行った教育研究活動等.....	6
3 評価領域別の集計及び分析.....	7
(1) 教育の領域.....	7
① 講義担当等に関する事項.....	7
② 教育改善に関する事項.....	8
③ 教育研修・FDに関する事項.....	14
④ オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項.....	16
⑤ 学生の受賞等.....	17
(2) 研究の領域.....	19
① 著書、論文等の発表実績.....	19
② 共同研究などに関する活動実績.....	20
③ 受賞等の実績.....	22
(3) 国際・社会貢献の領域.....	24
① 国際交流実績.....	24
② 社会貢献実績.....	25
(4) 組織運営の領域.....	28
4 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価.....	30
(1) 各領域における自己点検評価点ならびに達成度.....	30
(2) 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム.....	31
(3) 評価委員からのコメント.....	38

平成17年度教員の個人評価について

理工学部における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、理工学部評価委員会の下に置かれた理工学部個人評価実施委員会において行うこととされ、前回の平成16年度分についての試行結果を踏まえ、今回平成17年度分について評価を実施し、その結果が取りまとめられました。

自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、及び組織運営の4つの領域ごとの活動状況評価と総合評価が、それぞれ5段階の評価点で記入されており、個人評価実施委員会は、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び本学部の目標達成に向けた活動という観点からそれら評価点の妥当性を検討しました。

特に今回は、個人達成目標として掲げる各領域の事項に、学科で達成すべき共通目標を盛り込み、若干客観性をもたせる工夫をしましたが、前回の試行時に見受けられた自己評価が極端に甘い人あるいは厳しい人の数が減り、理工学部教員の多くは概ね妥当な自己点検・評価を行っているものと判断されました。また、理工学部各学科とも、4領域にわたり総じて良好な活動状況であり、前年度に比べ改善の努力も見られます。

今般の報告書は、学科毎に集計された活動実績及び自己評価の結果を、理工学部として「教員個人評価の集計・分析」と題し取りまとめたものですが、今後、このような教員の個人評価が単なる評価作業に留まることなく、自己の教育研究等の活動改善が継続的に図られ学部・学科の活性化に資することを期待する次第です。

理工学部長 中 島 晃

1 教員個人評価の実施状況

(1) 対象教員数、個人評価実施者数、実施率など

理工学部7学科と大学院工学系研究科(博士前期課程と博士後期課程)所属の教員(教授、助教授、講師、助手)に対して、別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し、全員から回答を得た(実施率100%)。

学 科	職 種	対象教員数	実施率(%)
数理科学科	教 授	7	100
	助教授 (講師を含む)	4	100
物理科学科	教 授	7	100
	助教授 (講師を含む)	7	100
知能情報システム学科	教 授	6	100
	助教授 (講師を含む)	5	100
	助 手	4	100
機能物質化学科	教 授	11	100
	助教授	12	100
	助 手	6	100
機械システム工学科	教 授	10	100
	助教授 (講師を含む)	11	100
	助 手	5	100
電気電子工学科	教 授	8	100
	助教授 (講師を含む)	14	100
	助 手	3	100
都市工学科	教 授	10	100
	助教授 (講師を含む)	9	100
	助 手	4	100
理工学部 (合計)	教 授	59	100
	助教授 (講師を含む)	62	100
	助 手	22	100

(2) 教員個人評価の実施概要

① 評価組織：理工学部評価委員会、理工学部個人評価実施委員会

② 実施経緯、内容、方法等

平成 17. 7. 6 教授会

個人評価の実施を行うように、「理工学部評価委員会規程」を改正

平成 17. 7.20 代議員会

「佐賀大学理工学部における職員の個人評価に関する実施基（案）」（以下「実施基準（案）」という。）及び「理工学部における個人達成目標及び重み配分の指針」（大学教員用）」（以下「指針（案）」という。）を各学科に検討依頼

平成 17. 9. 7 代議員会

実施基準（案）及び指針（案）の内容を審議

平成 17. 9.14 第 1 回理工学部評価委員会

実施基準（案）及び指針（案）の内容を検討

委員構成：13 名

理工学部長、本学部から選出された教育研究評議会評議員 2 名、本学部から選出された佐賀大学大学評価委員会委員 2 名、学科長（数理科学科、物理科学科、知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科、電気電子工学科、都市工学科）、理工学部教務委員会委員長、理工学部事務長

平成 17. 9.26 第 2 回理工学部評価委員会

実施基準及び指針の内容を検討

平成 17.10.12 教授会

実施基準（案）及び指針（案）の内容を審議

平成 17.10.31 第 3 回理工学部評価委員会

実施基準（案）及び指針（案）の内容を検討した結果、一部修正の上、

「佐賀大学理工学部における教員の個人評価に関する実施基準（試行）」（以下「修正後の実施基準（案）」という。）及び「理工学部における個人達成目標の指針」（教員用（以下「修正後の指針（案）」という。）を決定

平成 17.11.16 教授会

修正後の実施基準（案）及び修正後の指針（案）を承認

平成 17.11.25 第 1 回理工学部個人評価実施委員会

教員の個人評価実施日程及び本委員会の作業内容を確認

委員構成：11 名

理工学部長、本学部から選出された教育研究評議会評議員 2 名、学科長（数理科学科、物理科学科、知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科、電気電子工学科、都市工学科）、理工学部事務長

- 平成 17.12.1（試行実施）各教員へ、平成 16 年度の「個人目標申告書（別紙様式 1）」・「活動実績報告書（別紙様式 2）」・「自己点検・評価書（別紙様式 3）」、及び平成 17 年度の「個人目標申告書（別紙様式 1）」を配付
- 平成 17.12.末日 平成 16 年度の別紙様式 1～3、及び平成 17 年度の別紙様式 1 を各教員から受領
- 平成 18.1.5 平成 16 年度の別紙様式 1～3 を、理工学部個人評価実施委員会委員（各学科長）へ送付
なお、同委員は、1 月末日までに、別紙様式 1～3 に基づいて、審査及び評価を行い、評価結果を、平成 16 年度「個人評価結果」（別紙様式 4）に記載の上、学部長へ送付
- 平成 18.2.22 第 2 回理工学部個人評価実施委員会
教員の個人評価結果の審査
- 平成 18.2.24 第 3 回理工学部個人評価実施委員会
教員の個人評価結果の審査
- 平成 18.4.中旬 学部長は、4 月中旬までに、別紙様式 1～3 に基づいて審査し、学科長が評価した平成 16 年度「個人評価結果」（別紙様式 4）の評価内容を確認し、必要に応じて評価結果の補足等及びコメントを記載
- 平成 18.4.26 第 1 回理工学部評価委員会
教員個人への評価結果の通知内容、個人評価結果の集計・分析方針及び個人評価実施基準等の見直しについて検討
- 平成 18.5.10 第 2 回理工学部評価委員会
個人評価実施基準等の見直しについて検討
- 平成 18.5.17 第 3 回理工学部評価委員会
教員個人への評価結果の通知内容、個人評価結果の集計・分析結果について検討
個人評価結果の各教員へのフィードバック手続き開始
- 平成 18.7.5 教授会
佐賀大学理工学部における教員の個人評価に関する実施基準及び「理工学部における個人達成目標の指針」は、基本的に 16 年度試行基準に準じ、重み配分は行わないとし、又、学科の共通目標を新たに加えることで提案があり承認

- 平成 18.7.6 各教員へ、平成 17 年度の「個人目標申告書（別紙様式 1）」・「活動実績報告書（別紙様式 2）」・「自己点検・評価書（別紙様式 3）」及び平成 18 年度の「個人目標申告書（別紙様式 1）」を配付
- 平成 18.7.19 第 4 回理工学部評価委員会
教授会で提案された、佐賀大学理工学部における教員の個人評価に関する実施基準及び「理工学部における個人達成目標の指針」について承認
- 平成 18.7.末日 平成 17 年度の別紙様式 1～3、及び平成 18 年度の別紙様式 1 を各教員から受領
- 平成 18.8.末日 平成 17 年度の別紙様式 1～3 を、理工学部個人評価実施委員会委員（各学科長）へ送付
- 平成 18.9.6 第 5 回理工学部評価委員会
平成 17 年度理工学部における教員の個人評価の実施スケジュール等の確認
- 平成 18.10.中旬 個人評価実施委員会委員は、別紙様式 1～3 に基づいて、審査び評価を行い、評価結果を、平成 17 年度「個人評価結果」（別紙様式 4）に記載の上、学部長へ送付
- 平成 18.10.23 第 6 回理工学部評価委員会及び個人評価実施委員会
スケジュール等の確認
教員の個人評価結果の審査
- 平成 18.11.6 平成 17 年度教員の個人評価の結果について学科長が評価した平成 17 年度「個人評価結果」（別紙様式 4）の評価内容を確認し、必要に応じて評価結果のコメントを記載の上、学部長から各教員へ送付
- 平成 18.11.8 第 7 回理工学部評価委員会
- 平成 18.11.15 第 8 回理工学部評価委員会
平成 17 年度 教員個人評価の集計・分析報告書（案）について検討

③ 添付資料

国立大学法人佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学理工学部における教員の個人評価に関する実施基準

「理工学部における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

活動実績報告書（別紙様式 2）

自己点検評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）

2 理工学部学科・工学系研究科教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等

はじめに、理工学部教員ならびに職員が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等を以下に示す。

- 平成 17 年度知能情報システム学科：日本技術者教育認定機構（J A B E E）中間審査の受審
- 平成 17 年度機械システム工学科：日本技術者教育認定機構（J A B E E）本審査の受審
- 機能物質化学科：日本技術者教育認定機構（J A B E E）本審査の平成 18 年度受審のための準備
- 平成 17 年度理工学部・工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム（平成 16 年度より）：
 - 相手国：中国、韓国、インドネシア
 - 数理科学科、物理科学科、知能情報システム学科、電気電子工学科、機械システム工学科、機能物質化学科、都市工学科の教員（一部）が参画
- 大学院（工学研究科と農学研究科との連携）国際環境科学特別コース
 - 電気電子工学専攻、機械システム工学専攻、機能物質化学専攻、都市工学専攻、生体機能システム制御工学専攻、エネルギー物質科学専攻（後期課程）、生体機能システム制御工学専攻（後期課程）、システム生産科学専攻（後期課程）の教員が参画
- 平成 17 年度佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成 13 年度より）：協定校からの交換留学生の教育プログラム：物理科学科、知能情報システム学科、機能物質化学科、電気電子工学科、都市工学科の教員（一部）が参画
- 高等学校ジョイントセミナー、出張講義等
- 環境美化エコ活動
 - 平成 17 年度省エネルギー活動：夏季ピーク電力の抑制策：7 月期の空調断続運転
 - 定期的なキャンパス環境美化デーにおける一斉清掃

3 評価領域別の集計及び分析

(1) 教育の領域

① 講義担当等に関する事項

教員 1 人当たりの講義担当、指導学生数に関する集計を表に示す。

学 科	職 種	学 部			大 学 院			
		担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	卒研 学生 指導 数	担当 科目 数/ 教員	受講 生数 延べ 数	修士 学生 指導 数	博士 学生 指導 数
数理科学科	教 授	5.1	218	2.7	2	9.3	1.3	0.1
	助教授 (講師含)	5.8	198	2.0	1.8	14.3	1.0	—
物理科学科	教 授	7.0	321	2.6	0.9	7.8	2.0	0.6
	助教授	5.6	148	2.6	1.4	24.4	3.0	—
	講師 (初年度)	5.0	138	1.5	1.0	10.5	0	—
知能情報 システム学科	教 授	5.8	349	7.5	1.5	57.0	4.2	1.8
	助教授 (講師含)	5.0	323	5.6	1.2	80.0	2.4	—
	助 手	3.3	169	3.3	0.25	7.0	—	—
機能物質化学科	教 授	7.0	330	3.9	2.5	22.9	3.7	1.7
	助教授	7.3	351	3.7	2.5	34.2	1.9	—
	助 手	5.0	331	2.0	—	—	—	—
機械システム 工学科	教 授	4.5	360	3.9	2.4	20.1	4.6	1.4
	助教授 (講師含)	4.6	354	3.3	1.2	10.4	1.6	—
	助 手	1.4	125	1.8	—	—	—	—
電気電子工学科	教 授	4.3	215	6.5	3.4	33.4	7.6	2.0
	助教授 (講師含)	6.7	350	3.8	2.9	22.1	4.8	—
	助 手	3.3	238	2.0	1.5	5.5	—	—
都市工学科	教 授	4.2	278	4.5	1.8	22.8	2.9	1.2
	助教授	5.2	308	4.4	1.7	20.2	2.8	—
	助 手	3.0	118	0	—	—	—	—

- ・ 数理科学科では、助教授は教授と同等の教育貢献を行っている。
- ・ 物理科学科では、評価対象の講師全員は赴任初年度に当たるため、評価年度の授業担当数は助教授よりマイナス1としている。
- ・ 知能情報システム学科では教授と助教授がほぼ同程度の教育貢献を行っている。
- ・ 機能物質化学科では、教授と助教授は平等に教育を担当するようにカリキュラムが組まれており、卒研配属の学生数も同じである。助手にも卒研学生が配属され、卒業研究の指導を行っている。
- ・ 電気電子工学では、助教授の科目負担が約2科目程度重くなっているが、これは実験科目を負担している結果である。
- ・ 機械システム工学科では教授、助教授の負担を均等化されている。
- ・ 都市工学科では、助教授は教授よりも多くの科目、学生の教育を担当している。

② 教育改善に関する事項

教育改善に関し、理工学部各学科の教員は、次のような取り組み、実践をおこなっている。

【数理科学科】

- ・ 個別の学生の指摘も考慮して、更に授業の仕方を工夫した。
- ・ 講義に興味を持ち、その場で理解できるように、演習と質問を多くした。
- ・ 授業アンケートで「声の大きさ・明瞭さが適切とは思わない」という回答がいくつかあったので、マイクを用いたりして大きな声で話すよう心がけている。
- ・ 話す速度、量を半分にして分かりやすい授業を心がけた。
- ・ 主題科目のアンケートで、手書きの資料が読み難いという回答があったので、資料を数式文書として作成し、授業で使用した。
- ・ シラバスを作成する代わりに、授業内容や評価基準に関して適宜詳細に説明した。
- ・ 専門必修科目のアンケートで「黒板を消すのが早い」という指摘があったので、黒板を3つに区切って板書するなどの工夫をした。
- ・ 主題科目、専門科目において講義ノートと過去の定期試験問題をHPで公開している。

【物理科学科】

- ・ 講義ノートの作成とWeb公開。授業評価アンケートの集計・分析結果は教員のホームページで公開。
- ・ 教材に最新の成果の取り入れ、実験設備の公開による関心の喚起
- ・ 実験手引書を更新、配布。ホームページによる公開。
- ・ 学科ニュースの発行による学習・就職情報の提供及び学問への関心の喚起
- ・ 「大学入門科目Ⅱ」の科目新設と少人数教育

- ・ 随時レポート、中間試験を課して学生が自ら取り組む時間の確保
- ・ 学生自習室を設け、オフィスアワーを設置する等、学生自主学习への支援
- ・ 演習科目では、レポートのチェック、注意事項の学生への徹底
- ・ レポートを課し、答案返却の際、TA と共に丁寧な解説を行うなど
- ・ 教養教育（主題）科目では、毎回プリントを配布し、自主学习の助けにした。
- ・ 教養教育主題科目の授業のスライドをホームページ上に公開し、復習の便に供した。
- ・ 授業中、学生に毎回宿題の解答を提出してもらい、その習熟度を参考に講義の構成を再構築した。
- ・ 実験授業では、実験結果を学生同士でプレゼンテーションしあうようにしたため、資料集め、結果の理解、発表資料製作に十分時間をかけるようになった。
- ・ 主題科目において、特に数式を多く使用する部分等にプリントを配布した。
- ・ 受講生に対し講義ごとの質問票やミニテストの配布とチェック
- ・ 講義における学生の発言を促す工夫
- ・ 再試験の受験者には、事前の自習を要求している
- ・ 大学院生には学外での研究発表を多数実施
- ・ 学生による授業評価を通じて得られた諸問題に対する教育法の改善
- ・ 全員に発表用のスライド（パワーポイント）を提出・発表させることによって課題設定、調査及びプレゼンテーションの能力を高めた。
- ・ パワーポイント教材の開発、視覚的に分かりやすい授業の工夫によって効果を実証
- ・ 学部専門科目「卒業研究」及び博士前期課程「特別研究」において、学生を共同研究者に入れ、国内外の先端共同利用研究施設での出張実験や学会発表に参加させ、海外での共同実験や学外での研究発表を通して自主学习の意欲を高揚させるよう努めた。学生が国際的に評価の高い学術論文誌に論文発表できるようになった。

【知能情報システム学科】

- ・ 学部専門科目「卒業研究」及び博士前期課程「特別研究」において、学生を共同研究者に入れ、国内外の先端共同利用研究施設での出張実験や学会発表に参加させ、海外での共同実験や学外での研究発表を通して自主学习の意欲を高揚させるよう努めた。学生が国際的に評価の高い学術論文誌に論文発表できるようになった。
- ・ 担当した学部および博士前期課程の授業科目で、講義ノートのコピーを配布し、またその PDF ファイルを web で公開した。
- ・ 担当した 4 つの学部の専門科目と教養教育科目では毎回小試験を課して、学生の講義内容の理解を確認させた。

- ・ 講義ノートを配布して板書の負担を少なくするようにした。
- ・ 学部専門科目についてはすべて専用の講義ホームページを設け、復習に必要な情報はすべてインターネットを通じて入手できるようにした。
- ・ 「線形数学Ⅰ」「線形数学Ⅱ」の内容を見直し、なるべくポイントをしばった講義計画をたてるようにした。
- ・ 講義資料はすべてホームページにアップされており、学外からでもダウンロードできるようにしている。
- ・ 大福帳システムを導入しており、毎回の授業の最後に学生の質問・意見を収集し、次回の講義時に本人に回答を返している。その結果、学生からのフィードバックを得やすくなり、授業のスムーズな進行や教育改善に効果があった。
- ・ レポートを採点する際には、チェックシートを用いて学生にコメントを返している。これにより、採点基準の明確化および採点作業の効率化が図られた。
- ・ 大学院生には年 2 回の学会発表を義務付け、計画的に指導している。
- ・ 全講義で講義資料の公開に授業支援システム Moodle を導入した。
- ・ 授業評価アンケートや Moodle での資料アクセス状況などから改善をおこなった。
- ・ 主要専門科目「オペレーティングシステム」「データ構造とアルゴリズム」について、講義ノートを Web 公開している。
- ・ 演習科目「プログラミング演習Ⅰ、Ⅱ」において、演習課題とその解説を Web 公開し、さらにレポート提出と評価も Web 上で可能としている。
- ・ 授業評価の意見を受けて、「小テスト」をほぼ毎時間の最後に実施して次週に解説することとした。
- ・ 学科内で開講前・後の点検を行うことにより、講義間での内容の重複や抜け、学生の到達度がより良く分かるようになった。
- ・ 教養教育主題科目「視覚と聴覚の認知科学」では、アンケート等の結果を踏まえて、次回開講時に向けて、内容の再検討を行った。
- ・ 学科教育点検委員会ならびに開講前開講後点検での指摘事項や、改善勧告、ならびに FD 関係の文献の内容を平成 18 年度の講義に活かすべく講義内容や方講義法の検討を行った。
- ・ 毎回の授業の最後に質問票を学生に配り、その回の授業について自由に質問や疑問点を記述させ、それについて次回の授業の冒頭において回答し、学生の授業理解を助けた。
- ・ 例題を示し、やり方を WEB 上で公開した。
- ・ 教育内容では教科書を作成するように心掛けている。
- ・ 講義内容を精選し、必要最小限の事項をゆっくりと時間をかけて講義するように努めている。また、専門科目で講義ノートを公開している。

- ・ 講義期間中に 4 回のミニテストを実施し、その結果に応じて受講生ごとに異なる課題を課しレポートを提出させることにより、受講生ごとに異なる苦手単元の克服を試みたところ、それを行わなかった場合に比べ、受講生の最終成績が 10 ポイントも向上することを確認し、その有効性が明らかになった
- ・ 専門教育科目確率統計において、内容を精選し、速度を遅くして、学生の理解向上に努めると共に、予習・復習のための授業資料を用意した。また、毎回問題演習を行なうようにした。
- ・ 講義後に、今日の講義のまとめを書かせることは、講義の復習の機会を与えることになり、学習内容の定着が図れる。
- ・ 専門必修科目「ハードウェア実験」において担当している内容に関し、レポート提出後に 1 人一回約 10 分の 1 対 1 面談を行い、理解度のチェックを行った。この面談は、十分に理解していることが確認されるまで、また時間の許す限り繰り返し行った。
- ・ 声が小さいとの意見については、携帯用拡声器を使うことにより解決を図った。
- ・ 板書の字が小さいとの指摘については、タブレット型 PC を使うことにより、拡大を図っている。また、電子黒板を採用することにより、記録が残せるように工夫している。

【機能物質化学科】

- ・ 過去 4 年間の全科目の定期試験の問題、解答用紙、解答例を保存
- ・ 専門科目について授業評価アンケートの実施、各科目と学年平均の集計結果をまとめた報告書の作成、及び各教員による授業評価の結果に基づいた改善計画書の公開
- ・ 中間試験、期末試験における成績分布の解析に基づく試験報告書の作成
- ・ シラバスの講義内容に基づいた試験問題の作成、試験環境を整え、成績評価の適正化
- ・ 試験後、個別に学生に来室させ、試験結果の解説を通して弱点の克服と勉強の仕方を指導
- ・ 講義ノートの作成とシラバスに沿った講義の実施、講義のポイントをまとめたプリントの配布、チューターによる丁寧な実験指導
- ・ 文字・図をわかりやすくするため OHP の使用と教員の話に集中させるための原図の配布
- ・ 授業中の学生の理解度を知るため、各項目ごとに質問を受けるようにした
- ・ 学生の口頭による説明力を養うため、実験レポートの試問時に、実験操作の概要や結果について発言させた
- ・ 学部専門科目の講義において、講義内容を理解させるために毎回小テストを実施

- ・ 教科書に記載されていない重要項目の解説、演習問題の解説、中間・期末試験の問題と解説をホームページに公開
- ・ 分子模型等の教材を用いて、学生の理解度を上げる
- ・ 講義内容に関して、最近の話題を紹介して、勉学の動機付けを図っている
- ・ 毎回出席をとり、学生に質問するようにしている
- ・ 板書は色づけをし、大きな声でゆっくり話すように努めている
- ・ 毎回宿題を提出し、添削して返却することにより、学生の理解度を上げている
- ・ 演習の時間を多くとり、理解を深めさせるようにしている。さらに、全員が解けるように補助説明
- ・ 科学史を取り入れ、なぜそのような考え方が生まれたのかその背景を紹介するとともに、学問や化学技術の流れを解説することにより、学生に興味と意欲を持たせるように努めた
- ・ 学生と保証人との懇談に応じ、学生の学習計画を指導
- ・ メールアドレスを公開し、質問や提出物の添削は電子メールで個別指導

【機械システム工学科】

- ・ プロジェクタと板書の併用の工夫
- ・ 板書の字を丁寧に、大きく、整然と書くように努めた。
- ・ 講義中はマイクを有効に使用するようにするとともに、声の大きさ明瞭さに気をつけた。
- ・ 「板書の量が多い」との指摘があった科目において、板書した内容の中で最重要のポイントがわかるように板書と説明の仕方を工夫した。
- ・ 専門必修科目「材料力学1」でレポート問題の難易度を再考した。
- ・ 演習問題の回答に理解し易い工夫をこらした。
- ・ 「工業力学 I」では教材と液晶プロジェクタを用いて視覚的に理解できるようにした。
- ・ 「弾・塑性力学」内容を理解できるようにほぼ毎回レポート課題を課した。
- ・ 専門必修科目「材料力学演習」に関して、できるだけ独自に作成した問題を準備した。
- ・ 専門必修科目「機械設計 I」で例題や演習問題の解答に割く時間を増やし、学生の理解度アップに努めた。
- ・ 教養教育の主題科目「機械技術発達史」ではビデオ教材を併用し、映像により理解を深めさせた。
- ・ 黒板の狭い範囲で書く・消すを行うのではなく、黒板全体を使うよう工夫した。
- ・ 講義時間が足りなくて、問題の模範解答を行う時間がなかったので、できる限り Web 上で模範解答を開示した。
- ・ 「機構学」と「機械要素設計製図 II」では、ネット授業科目「わかりやすい機構学」の

講義を利用して、予習・復習が可能な環境にした。

- ・ 「機械制御 I」の授業評価で、いつも「演習がもう少し欲しい」については、現在のカリキュラムでは演習を取り入れる時間がないし、他の主要科目のように 2 クラスで演習付の授業形態が考えられるが、全くそのような（全体カリキュラムからして）時間的余裕がないのが現状である。具体例は、教科書に載っているのはほんの一例であるので、各章の始めあるいは気がついたときには、他の具体的例「自動車、ロボット、飛行機、人工衛星等」を話すようには心がけている。
- ・ 「計測工学」では 全ての配布資料を PDF にし、個々の学生のメールボックスに送付した。また配布資料には式変形過程を詳細に記述している
- ・ 「計測工学」では、 全ての中間試験結果について 個人面談を行いながら 解答例および解説を行った

【電気電子工学科】

- ・ シラバス作成の Web 公開と履修学生への直接授業説明
- ・ 入学年度ごとに配置した担任教員（各々の年度で2名ずつ）からの学生の履修に関する指導・相談
- ・ 実験科目についてはテーマにわけた少人数単位の教育
- ・ プレイメントテストに基づく学力別のクラス編成
- ・ 演習科目または講義と演習が一体化した科目の設定と TA の配置
- ・ 実験科目への TA の配置
- ・ 講義科目について、数回～毎回レポートを課した学生の自主学习
- ・ 実験科目について、 レポート指導時の質問対応の自主学习
- ・ 学生への授業評価アンケート調査
- ・ 大学入門科目、実験における独自のアンケート調査
- ・ 授業アンケートに基づく改善の取り組み
- ・ 授業改善の取り組みに関する問題点の抽出
- ・ 補習授業による学力不足の対策
- ・ 再試験の受験者に対する事前の自習要求
- ・ 研究活動を授業科目に反映
- ・ 大学院生に対する学外での研究発表の義務化 その他

【都市工学科】

- ・ 数学や力学については、教える内容を高校あるいは中学の数学・理科レベルからスタートするような講義資料プリントを作成するように心懸けている。
- ・ 従来の科目を演習科目に変え、講義演習時間数を倍増し、自学自習する時間を確保した。
- ・ 演習問題の解答を板書した。
- ・ 学生個人用の出席カードにその日の講義に対するコメントを記述させる。こ

れを参考にして改善している。

- ・ 毎回、課題を講義前に配布して講義内容、要点、重要事項等を学生に予め周知させて、講義への集中を促している。提出された課題のレポートは個別に添削して数日中に返却している。
- ・ テキストを作成しており、受講対象学生に応じた内容と記述法により学生の興味を喚起すると共に理解度の向上を図っている。これらのテキストは虫食いになっており、また図も未完成（無いばかりもある）になっている。学生が受講しながら完成させるようになっている。
- ・ 演習問題（豆テスト）の回数を増やした。質問票による質問をやすくした。
- ・ 講義用のスライドにアニメーションを導入し、分かりやすくしたことと、プリントをスライドと整合が取れるように修正した。
- ・ 話す際、ゆっくりかつ明瞭に伝えることを心がけた。教養教育科目では、とくに文系学生の興味を引き出すことを念頭に置いている。
- ・ ヴィジュアルな伝達に心がけている。また授業中に頻繁に学生の疑問や意見を求めるよう努めている。
- ・ 学生の理解度の把握と要点復習を兼ねて、毎回講義終了直前にミニレポート・ミニテストを行った。
- ・ 大講義室での授業では大きな字での板書に努めた。
- ・ 映像や配布資料を中心とした講義であったが、板書も多く取り入れた。
- ・ 講義の時、声を大きくして、間を取って話すように努力している。
- ・ 授業中の課題だけでなく、宿題を与えることにより、学生自身の疑問点を引き出し、それを解決するための手だてについて、講義を通して説明していくこととした。
- ・ 宿題を課すようにした。また、シラバスの改善を図った。
- ・ 各演習では学生の個々のテーマ設定に対応すべく、毎回メモを取り次回以降の指導に備えている。

③ 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FDについて、理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

【数理科学科】

学科内でのFD活動（定期試験、解答例の保存、授業評価の公開等）の他、以下の事項が報告されていた。

- ・ 理工学部FD講演会（平成18年2月10日）参加（教授2名）、報告書の作成（教授）
- ・ 第6回FD・SDフォーラム（高等教育開発センター主催）に参加（助教授）

【物理科学科】

学科内でのFD活動の他、

- ・ 高等教育センターFDフォーラム（教授）
- ・ 理工学部FD報告会（教授、助教授）
- ・ 佐賀県理科教育研究大会での講演（教授）

【知能情報システム学科】

学科内でのFD活動の他、

- ・ 理工学部FD報告会（教授、助教授）
- ・ 情報処理教育の現状（教授）
- ・ JABEEシンポジウム（助教授）

【機能物質化学科】

- ・ FD委員が教員から意見を聴取し、FDの企画に反映させている。また、学科会議、学科の教育点検委員会で教員の意見を聴取している。
 - 学科の教員のFD講演会等への参加者のべ人数 24名（H17年度）
 - 学科の教員のFD講演会等での講演のべ人数 2名（H17年度）
- ・ 学科のFD活動として次のような記載がある。
 - 学科に教育点検委員会を設置し、授業改善について議論した。（90分×6回）
 - 学科で、JABEEに関する講演会を2回開催した。
 - 授業評価アンケートで平均スコアの最も良かった科目の講義を、他の教員が参観し自らの授業改善に役立てることが出来るようにした。
 - 基礎科目の補習ができるように演習問題とヒント、解答を載せたe-Learningシステムを構築した。

【機械システム工学科】

- ・ 過去3年間の全科目の定期試験の問題、解答用紙、解答例を学科の資料室に保存している。（JABEE教育の一環）。
- ・ JABEEプログラムの一環として「授業評価」の結果を保存、学科内で開示している。
- ・ 機械システム工学科として、JABEE教育プログラムを受け入れている。また学科のJABEE推進委員として、受審のため議論した。
- ・ 機械システム工学科JABEE委員会において、定期的に教育改善の議論をした。（90分×8回）
- ・ JABEE基準による目標・シラバス・講義・評価を導入した。
- ・ 平成17年度FD講演会（理工学部）参加 1、1
- ・ 第3回FD・SDフォーラム（高等教育開発センター）講演 2時間
- ・ 第1回FD・SDフォーラム講演 2時間
- ・ 第2回FD講演会（理工学部）講演
- ・ SCS活用セミナー2005 大学職員のための教務セミナー（京都大学高等教育研究開発推進センター）講演 1.5時間。

- ・ 機械システム工学科教育点検委員会において、定期的に教育改善について議論した。(90分×6回)
- ・ 学生による授業評価において、声の大きさなどに問題のある教員に対し教育改善勧告を実施した。
- ・ 卒論着手者に対し、教員の教育における好感度調査を行い、最高の評価を得た教員に対し、学科教員による参観および評価を行った。その後、当教員をベストティーチャーとして顕彰した。

【電気電子工学科】

- ・ 理工学部FD講演会(教授、助教授)
- ・ 理工学部主催のJABEE関連講演会(教授)
- ・ 大学電気教員協議会及び大学電気工学教育研究集会(教授、助教授)
- ・ 電子情報通信学会JABEEシンポジウム、自主研修会(教授、助教授)
- ・ 全学教養教育機構FD講演会(教授、助教授)
- ・ 電気電子工学科教育改善委員会(教授、助教授)
- ・ 電気電子工学科カリキュラム検討委員会(教授、助教授、講師)
- ・ 電気電子工学科JABEE委員会(教授、助教授)
- ・ 電気電子工学科学生実験委員会(助教授、講師、助手)
- ・ レポートまたは定期試験の問題、解答用紙、解答例の保存(ほぼ全員)

【都市工学科】

- ・ 学科に教育システム検討委員会を設置し適宜議論している。また、学科の教員のFD講演会等への参加者のべ人数は14名を数える。
 - 理工学部FD報告会(教授、助教授)
 - 情報処理教育の現状(教授、助教授)
 - JABEEシンポジウム(教授、助教授)
 - 大学評価・学位授与機構の審査員研修会(教授)
 への参加が報告されていた。

④ オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置状況と学生相談の内容について、理工学部各学科の教員は次の活動を行っている。

【数理科学科】

- ・ 全教員が行っている。
- ・ 相談内容は授業内容、大学での勉学に関するものが多い。

【物理科学科】

- ・ 全教員が行っている
- ・ 相談の内容で主なものは、
 - 進路の相談

- 担当授業科目への質問、応答
- 大学院への進学に関する相談等である。
- ・ 実際の質問は、オフィスアワー以外がかなりのぼった。

【知能情報システム学科】

- ・ 全教員が行っている。
- ・ 時間が空いたときには可能な限り迅速に対応する教員が多く、そのため、メールでの応答や、メールで面接時間を調整するケースがほとんどである。

【機能物質化学科】

- ・ 全教員が行っている。
- ・ 相談内容としては、講義内容、試験結果及び進路に関するものが多い。

【機械システム工学科】

- ・ 全教員が行っている。
- ・ 機械システム工学科で実施している担任制に沿って、担当学生と定期的に面会し、単位の履修状況等の把握を行っている。

【電気電子工学科】

- ・ 全教員が行っている。
- ・ 授業科目への質問については担当教員が対応している。
- ・ 大学院への進学および就職などの進路指導については主として卒研指導教員（ティーチングスタッフ全員）が相談に応じている。
- ・ 就職先については就職担当教員、卒研指導教員双方が相談に応じている。
- ・ 単位等の学修状況の相談は、主として教務委員、学年担当教員が対応している。
- ・ 3年次以下の学生に対する生活相談は主として学科長、学生委員、学年担当教員が対応している。
- ・ 4年次の学生に対する生活相談は主として卒研指導教員が相談に応じている。
- ・ 復学、休学、退学等の相談は主として学科長が対応している。

【都市工学科】

- ・ 全教員が行っている。
- ・ 相談内容は 講義の質問や進路相談に関するものが多い。

⑤ 学生の受賞等

【知能情報システム学科】

- ・ 電子情報通信学会九州支部学生会講演奨励賞（指導教員：教授、助手）
- ・ 情報処理学会九州支部奨励賞（指導教員：助教授）

【機能物質化学科】

- ・ 第 20 回日本イオン交換研究発表会ポスター賞（指導教員：教授）
- ・ 第 16 回廃棄物学会研究発表会最優秀ポスター賞（指導教員：教授）

- ・ 第 23 回夏季セミナーポスター賞（指導教員：助教授）
- ・ 第 23 回九州分析化学若手の会夏季セミナー（指導教員：助教授）
- ・ 第 43 回化学関連支部合同大会ポスター賞（指導教員：助教授）

【電気電子工学科】

- ・ 平成 17 年度電気学会九州支部長賞（指導教員：教授、助教授）
- ・ 第 1 回国際学生会議（茨城大学）最優秀発表賞、佐賀大学長賞（Laser Application, Dental Modifications Using Laser に関する活動）（指導教員：教授）
- ・ 電子情報通信学会九州支部学生会講演奨励賞（指導教員：助教授）
- ・ IEEE 福岡支部学生研究奨励賞（指導教員：教授、助教授）
- ・ 電子情報通信学会九州支部「成績優秀賞」（指導教員：助教授）
- ・ 電子情報通信学会九州支部学生会「講演奨励賞」（指導教員：助教授）
- ・ 電子情報通信学会九州支部連合大会講演奨励賞（指導教員：助教授）

【都市工学科】

- ・ 2005 年度日本建築学会設計競技 全国入選、2005 年度日本建築学会設計競技 全国入選、2005 年 9 月（指導教員：教授、助手）
- ・ 日本コンクリート工学協会主催のコンクリートミュージアム、2005 年 6 月（指導教員：助教授）
- ・ 土木学会西部支部優秀講演者賞、2005 年 3 月（指導教員：助教授）（指導教員：教授、助手）
- ・ 日本住宅学会九州支部優秀卒論賞（指導教員：助教授）
- ・ 第 40 回地盤工学研究発表会優秀講演者賞、2005 年 7 月（指導教員：教授、助手）
- ・ 6th International Conference on Geo Improvement Techniques 論文賞、2005 年 7 月（指導教員：教授、助手）
- ・ 地盤工学会九州支部優秀学生賞、2006 年 4 月（指導教員：教授、助手）

【佐賀大学学長賞】

【電気電子工学専攻】

第 58 回電気関係学会九州支部連合大会：電子情報通信学会九州支部連合大会
講演奨励賞：学長賞（助教授）

【都市工学専攻】

2005 年度日本建築学会設計競技佳作

【エネルギー物質科学専攻】

日本化学学会第 83 春季年会学生講演賞

第 1 回国際学生会議－生命サポート科学技術におけるフロンティア－優秀発表賞

(2) 研究の領域

① 著書、論文等の発表実績

過去5年間（H13.4.1～H18.3.31）の発著書、論文等の発表実績を表に示す。

学 科	職 種	著 書	論文総数		和文原著		英文原著		その 他
				査読 付		査読 付		査読 付	
数理科学科	教 授	0-1	1-18	1-11	0	0	1-18	1-11	0-5
	助教授 (講師含)	0	3-6	3-5	0	0	3-6	3-5	0-4
物理科学科	教 授	0	3-108	2-108	0-4	0-1	3-108	2-108	0-10<
	助教授 (講師含)	0-1	1-64	1-64	0-1	0	1-64	1-64	0-4
知能情報 システム学科	教 授	0-5	2-65	1-65	0-32	0-32	1-33	1-33	0-277
	助教授 (講師含)	0-5	1-12	1-12	0-4	0-4	1-8	1-8	6-48
	助 手	0	0-7	0-7	0-2	0-2	0-5	0-5	0-22
機能物質化学科	教 授	0-5	7-63	7-54	0-8	0-8	7-55	7-46	13-176
	助教授	0-2	3-33	3-30	0-11	0-11	3-32	3-29	0-129
	助 手	0-2	2-29	2-22	0-5	0-2	1-29	1-22	8-39
機械システム 工学科	教 授	0-7	11-220	10-146	1-15	1-15	6-205	5-131	0-6
	助教授 (講師含)	0-2	3-100	3-80	0-12	0-12	3-92	0-72	0-6
	助 手	0	5-31	2-31	2-6	2-6	3-25	0-25	0-1
電気電子工学科	教 授	0-6	7-72	6-72	1-36	1-36	0-45	0-45	12-343
	助教授 (講師含)	0-8	0-65	0-65	0-21	0-21	0-63	0-63	1-176
	助 手	0	5-16	0-11	0-4	0-4	1-12	0-7	5-14
都市工学科	教 授	0-3	0-33	0-32	0-16	0-15	0-17	0-17	0
	助教授 (講師含)	0-5	3-40	3-27	0-12	0-9	0-20	0-19	0
	助 手	0-2	1-18	1-18	0-7	0-7	0-11	0-11	0

表中、例えば、(0-2)は実績の(最小数-最大数)を表す。

【数理科学科】 本表より、良好な研究活動が行われていることが見て取れる。

【物理科学科】 殆どの論文はユニバーサルな基準に基づく国際的な学術論文誌にて公表

され、本表より活発な研究活動が行われていることが窺い知れる。論文件数が多い上位 2 名の教員においては主に規模の大きいプロジェクト組織で研究が遂行されるという専門分野の性格が反映されている。

【知能情報システム学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。しかし、一部の教員の研究成果報告数が少なく、これについてはその教員に教育活動、組織運営活動が過剰な負担になっていないか調査すべきである。

【機能物質化学科】教員 1 人当たりの論文数は 20 で、職種別では、教授 27、助教授 17、助手 15 となっている。論文は、外国誌や国内英文誌がほとんどで、国際誌への投稿が主である。大講座制のため、ほとんどの教員は独立しているにもかかわらず、活発に研究活動していることがわかる。

【機械システム工学科】本表より、概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

【電気電子工学科】一部の教員は、共著者として論文に貢献しているにもかかわらず、論文数等に加えておらず、評価点「1」としているが、これは過少評価であるので、そのことを考慮すれば、本表から、概ね良好な研究活動を実施していると言える。

【都市工学科】本表より、論文発表数の少ない報告があるが、短期的成果を求めるのが難しい研究分野であり、基礎的研究作業が継続されている。全体的には概ね良好な研究活動が行われていることが窺い知れる。

② 共同研究などに関する活動実績

【数理科学科】

- ・ 学内 COE の幾何学に関して中国と日本人研究者との研究交流、また微分方程式に関して東北大等との研究交流を行った（教授 2 名）

【物理科学科】

- ・ BファクトリーBelle 共同実験（教授・助教授）
- ・ 国際会議・シンポジウムでの講演・発表（教授・助教授）
- ・ 受託研究 1 件（教授）
- ・ 学内 COE2 件（教授）

【知能情報システム学科】

- ・ 医学部との共同研究（助教授）
- ・ アリゾナ州立アリゾナ大学との共同研究（教授）
- ・ インドネシアスラバヤ工科大学との共同研究（教授）
- ・ ネット授業推進等の学内プロジェクト(助教授)
- ・ 学内 COE：生態の情報処理方式を模倣した人口頭脳工学研究とその応用（助手）

【機能物質化学科】

- ・ 高性能リチウムイオン正極材料の開発（教授）

- ・ ナノ材料を用いるハイブリッドスーパーキャパシタの開発に関する研究（教授）
- ・ 廃棄物溶融スラグを用いた吸音板の開発（教授）
- ・ 飛灰中の金属の安定化に関する研究（教授）
- ・ 土壌腐植微生物による塩素有機化合物浄化・環境修復技術の研究（教授）
- ・ 燃料電池自動車等用リチウム電池技術開発（教授、助教授）
- ・ ハイブリッドカー用超高容量キャパシタの開発（教授）
- ・ 佐賀県有知的財産の維持管理および品質管理に関する調査及び研究（教授）
- ・ 水質モニタリングによる佐賀市河川の水環境評価研究（教授）
- ・ 伊岐佐ダムの水質保全のための腐植物質の影響に関する調査研究（教授）
- ・ ポルフィラン（POR）を核とした保健機能食品素材の開発、低分子成分の特徴を活かした高機能性食品素材の開発（助教授）
- ・ 有機物の光-電気変換技術に関する研究（助教授）
- ・ 多孔質添加メタン発酵促進技術（助教授）
- ・ 有機光機能材料の創製とその応用に関する研究（助教授）
- ・ 海洋性生物中の生理活性ペプチドの検索と構造機能相関（助手）
- ・ ダイヤモンドライクカーボン薄膜の調製と評価（助手）

【機械システム工学科】

- ・ 低比速度斜流送風機の開発に関する共同研究（教授）
- ・ フィンチューブ熱交換器の最適形状に関する共同研究（教授）
- ・ 細径内面溝付管の管内熱伝達特性および分流技術に関する共同研究（教授）
- ・ Post-CO₂ 冷媒を用いたヒートポンプサイクルに関する基礎的共同研究（教授）
- ・ 水素吸蔵合金(MH)を利用したヒートポンプとその応用に関する受託研究(助教授)
- ・ 水素安全利用等基盤技術開発一車両関連機器に関する研究開発一水素吸蔵合金と超高压容器を組み合わせたハイブリッド貯蔵タンクシステムの研究開発受託研究（助教授）
- ・ 圧縮水素容器系の高压化要素技術の開発に関する受託研究（助教授、講師）
- ・ 自動車用高強度ボルトの疲労特性評価に関する共同研究（教授、助教授）
- ・ 構造用部材の安全性向上に関する受託研究（教授、助教授）
- ・ 宇宙航空研究開発機構(JAXA)との共同研究（教授）
- ・ 部分 EHL 条件下における軸受鋼の転動疲労寿命に及ぼす相手面粗さの影響に関する受託研究（教授）
- ・ 小歯数歯車減速機の応用技術開発に関する共同研究（教授）
- ・ アルミナセラミックス人工骨頭への磁性流体研削加工の応用に関する共同研究（助教授）

- ・ 極低浮上磁気ヘッドに関する理論的研究に関する共同研究（助教授）
- ・ 歯車の鏡面加工に関する共同研究（助教授）
- ・ フレイ社製超磁歪デバイスの基礎特性の試験に関する受託研究（助教授）

【電気電子工学科】

- ・ 学内 COE:「人工頭脳構築のための生体における情報処理様式の解明とその応用」（教授、助教授、講師、助手）
- ・ 佐賀大学－大分大学定期合同セミナー（教授、助教授、講師）
- ・ インテグレイテッド・エレクトロニクス教育研究プロジェクト（佐賀大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー）（教授、助教授、助手）
- ・ 連携融合事業（佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター）（教授、助教授）
- ・ 地域新生コンソーシアム研究開発事業（教授、助教授、助手）
- ・ 企業との共同研究（教授、助教授、講師、助手）
- ・ エレクトロニクス・ものづくり体験教室（助教授）
- ・ サイエンスパートナーシッププログラム（助教授）
- ・ リフレッシュ理科教室（教授、助教授、助手）
- ・ 人工知能工学シンポジウム（教授、助教授、助手） その他

【都市工学科】

- ・ 佐賀大学有明海総合研究プロジェクト（教授、助教授）
- ・ 国土交通省九州整備局からの有明海沿岸道路に関する受託研究（助教授）
- ・ 鹿島市肥前浜草葺き民家保存に関する研究（助教授）
- ・ 無害化焼却灰の建設材料化に関する研究（教授、助手）

③ 受賞等の実績

【機能物質化学科】

- ・ 日本化学会欧文誌 BCSJ 賞（教授）
- ・ 環境工学フォーラム新技術・プロジェクト賞（教授・助教授）
- ・ 日本無機リン化学会学術賞（教授）

【機械システム工学科】

- ・ 米国機械学会より the 2005 Best Paper Award from Heat Transfer Division 賞（助教授）
- ・ 日本冷凍空調学会より学術賞（講師）
- ・ WIT(Wessex Institute of Technology) Eminent Scientist Award（教授）
- ・ SICE-ICASE International Joint Conference 2006 Certificate, The Institute of Control, Automation and Systems Engineers, Korea（教授）
- ・ ISIS 2005 Certificate of Recognition, The 6th International Symposium on Advanced Intelligent Systems（教授）
- ・ ISIS 2005 Outstanding Paper Award, The 6th International Symposium on

Advanced Intelligent Systems (教授、助教授)

【電気電子工学科】

- ・ エレクトロニクス実装学会「論文賞」(助教授)
- ・ 日本オゾン協会 「論文奨励賞」(教授、助教授、講師)

【都市工学科】

- ・ 6th International Conference on Geo Improvement Techniques 論文賞 (教授、助手)
- ・ 地盤工学会功労賞 (教授)

(3) 国際・社会貢献の領域

① 国際交流実績

【数理科学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシップ世話人、講師（教授2名）
- ・ 中国、韓国、アジアの諸研究者との研究交流（教授、助教授）

【物理科学科】

- ・ 佐賀大学理工学部国際パートナーシップによる、韓国延世大学とのジョイントセミナーを企画・実施（教授・助教授）。

【知能情報システム学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシップ講師（教授、助教授）
- ・ JICA 研修事業（教授、助手）
- ・ スリランカ・ペラデニア大学との共同研究(教授)
- ・ インドネシア・スラバヤ工科大学との共同研究（教授）
- ・ アリゾナ州立アリゾナ大学との共同研究（教授）

【機能物質化学科】

本学科の教員は、数多くの国際会議に出席し研究発表を行い、研究における国際交流を行うばかりでなく、以下のような外国との交流を行った。

- ・ 中南大学（中国、湖南省、長沙）における研究交流、バイオマス廃棄物を利用した資源の回収、リサイクルについて講演した。
- ・ 日本九州地域と韓国釜山地域のセラミックス関連研究者が合同で教育研究交流会を行なった。
- ・ リン酸化タンパク質の構造分析に関する共同研究を National Institute of Child Health and Human Development, National Institutes of Health と行った。
- ・ 韓国、培材大学の教授と研究交流と共に今後の共同研究について話し合い、大学間交流協定の事前打ち合わせを行った。
- ・ 学術協定を締結しているドレスデン工業大学の学生との交換留学を行った。佐賀大学修士学生を3ヶ月間派遣し、ドレスデン工業大学博士学生を4ヶ月受入れた。
- ・ 佐賀大学とハワイ大学の大学間交流とデュアルディグリー制度について調査を行った。
- ・ その他、外国人研究員の学科および専攻内での講演会の運営補助や留学生による研究相談への対応を行った。

【機械システム工学科】

- ・ 理工学部国際パートナーシッププログラム（教授）
- ・ 外国人訪問研究員の受け入れ（教授）

- ・ 協定校への表敬訪問および基調講演（教授）
- ・ 国際会議の各種委員（教授）
- ・ 外国人訪問助教授との共同研究（助教授）

【電気電子工学科】

- ・ 国際会議の参加，発表（教授、助教授、講師、助手）
- ・ 理工学部国際パートナーシップ（教授、助教授、講師）
- ・ 外国大学との交流セミナー・共同研究（教授、助教授） その他

【都市工学科】

- ・ 国際パートナーシッププログラムの実施（教授・助教授・講師）
- ・ 学生 10 名引率し、浙江大学との教育交流（教授）
- ・ 中国の研究者と盛土遺跡の調査（教授・助手）
- ・ カセサート大学にて特別講義及び研究交流（教授）
- ・ オランダ・デルフト工科大学の学生を都市工学科にて研究指導（教授）
- ・ 博士課程修了生とスリランカのペラデニヤ大学を訪問。交流と相手大学生の指導（教授）
- ・ オーストラリア、シドニー大学との研究交流（助教授）
- ・ オーストラリア、シドニーNew South Wales 大学との研究交流（助教授）
- ・ 日中共同による「中国・青島の歴史街区の保存を考える」研究会および見学会への参加（日本建築学会農村計画本委員会および青島理工大学（中国）の共同企画）（助教授）
- ・ ソウル近郊の干潟景観および沿岸集落の視察（科学研究費「日韓連携による干潟環境の地域資源学的解明とエコツーリズムへの応用」）（助教授）

② 社会貢献実績

【数理科学科】

- ・ 学会論文誌編集委員（教授）
- ・ 学会・研究会幹事（教授）
- ・ 大学入試センター委員（教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、助教授）

【物理科学科】

- ・ 学会論文査読委員（教授、助教授）
- ・ 学会論文誌編集委員（教授）
- ・ 学会研究会座長幹事（教授・助教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、助教授）
- ・ 「2005 世界物理年 in 佐賀」実行委員会に参加し、科学実験教室や講演会など様々の企画、運営（教授・助教授）
- ・ 佐賀大学公開講座「宇宙、素粒子、物質科学の最先端」の企画実施（教授・

助教授・講師)

- ・ オープンキャンパスにおける演示実験 (助教授)

【知能情報システム学科】

- ・ 学会論文査読委員 (教授、助教授)
- ・ 学会論文誌編集委員 (教授、助教授)
- ・ 学会研究会幹事 (教授、助教授)
- ・ 佐賀県主催の協議会等の幹事、運営委員など (教授、助教授、助手)
- ・ ジョイントセミナー (教授、助教授)
- ・ 学会開催の実行委員、運営委員など (助教授)

【機能物質化学科】

- ・ 公開講座「高齢者大学校」の講師
- ・ 公開講座「佐賀環境フォーラム」の実行委員会事務局長
- ・ 学外開放科目として機能物質化学科専門科目「地球環境化学、物質循環化学、環境化学」を学外者に開放
- ・ 講演会 (一般市民対象)「青少年のための科学の祭典 2005 全国大会」の講師
- ・ 講演会 (一般市民対象)「環境問題講演会」の講師
- ・ 高大連携として、
 - 「佐賀県理科化学教育研究発表会」の世話人
 - 「青少年のための化学の祭典」の講師
 - 「福岡県朝倉高校 (一日大学生)」の仲介
 - 「全国高校化学グランプリ 2005」の世話人
 - 「佐賀県高等学校理科教育研究大会」の講師
 - ・ ジョイントセミナー (佐賀県立三養基高校、佐賀県立小城高校、佐賀県立東松浦唐津青翔高校、長崎県立長崎南高校、佐賀清和高校、長崎県立佐世保西高校、佐賀県立白石高校、福岡県立伝習館高等学校、佐賀県立致遠館高校、佐賀県立伊万里高校、佐賀県立唐津高校)
 - ・ 技術研修での講師 (「第 48 回若手技術者のための技術研修会」、「中核人材育成事業、粉体加工に関する研修会」、「環境に配慮した企業活動に関する技術研修会」)
 - ・ 技術研修での実験指導「平成 17 年度九州地区国立大学法人等技術専門職員研修」
 - 教職員研修での講師「九州地区の国立大学の技術職員の研修」
 - オープンキャンパスでの学科の実験室等を開放、見学者への学科の説明及び研究の紹介

【機械システム工学科】

- ・ 学会理事・評議員・各種委員 (教授、助教授)

- ・ 学会論文査読委員（教授、助教授）
- ・ 学会論文誌編集委員（教授、助教授）
- ・ 学会研究会主査、幹事（教授）
- ・ 佐賀県主催の協議会等の幹事、運営委員など（教授、助教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、助教授）
- ・ 学会開催の実行委員、運営委員など（助教授）
- ・ 科学研究費委員会専門委員（教授）

【電気電子工学科】

- ・ 学協会本部・支部各種役員（教授、助教授）
- ・ 学会論文委員、査読委員（教授、助教授）
- ・ 諸団体・研究機構アドバイザー、評価委員（教授）
- ・ 学会各種委員会、研究会、専門委員会、委員長・幹事、オーガナイザー（教授、助教授、講師）
- ・ 佐賀県関連の協議会等の幹事、各種委員など（教授、助教授）
- ・ 学会開催の各種委員長、委員など（教授、助教授、講師）
- ・ ジョイントセミナー講師（教授、助教授、講師、助手）
- ・ 公開講座「人工頭脳構築のための生体における情報処理様式の解明とその応用」（教授、助教授、助手）

【都市工学科】

- ・ 公開講座「風景計画から見た都市デザイン」講師担当（助教授）
- ・ 科目等履修生の受け入れ：3科目、5名（教授、助教授）
- ・ 市民向け講演会講師、パネリスト（教授、助教授）
- ・ 技術者向け講習会の講師（教授、助教授）
- ・ ジョイントセミナー（教授、助教授）
- ・ 学会論文査読委員（教授、助教授）
- ・ 学会論文誌編集委員（教授、助教授）

(4) 組織運営の領域

【数理科学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 附属図書館長（教授）
- ・ 高等学校への出前講義（教授、助教授）
- ・ 省エネなどの活動に積極的に参加（全教員）

【物理科学科】

- ・ 運営企画会議委員（教授）
- ・ 全学各種委員会（教授・助教授）
- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 学科内の各種委員、係（全教員）
- ・ 高等学校への出前講義（全教員）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- ・ ある教員は委員長を含む全学各種委員会の委員を 13 役も引き受け、大学全体の組織運営に多大な貢献をしている。

【知能情報システム学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 高等学校への出前講義（教授、助教授）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（教授、助教授、助手）

【機能物質化学科】

- ・ 学科長の選出は、学科会議（助手以上の教員全員が参加）において、協議し、候補者を推薦する。
- ・ 学科長を議長とする学科会議（教員全員が参加）を置き、原則として毎月開催している。学科会議では、学生に関する重要な事項、教員人事に関わる方針、学科内での予算の執行、施設設備の有効活用等について議論、学科会議の決定事項は、学科長が適切な方法で実行している。
- ・ 学科内に、教育プログラム委員会、教育プログラム評価委員会、教育 FD 委員会、研究 FD 委員会、安全委員会、エコアクション 21 ワーキンググループ、JABEE 受審ワーキンググループを置き、各グループに教員及び技術職員を配置している。
- ・ 学科長は、代議員として代議員会に加わり、教授会の委任を受けた事項を審議している。
- ・ 教授会が設置する委員会の委員を、教室会議で協議して選出している。
- ・ 学部長を補佐する組織の委員等の推薦依頼があった場合は、学科会議で協議して推薦している。
- ・ 学科長は、大学の運営方針、中期計画・中期目標及び年度計画を熟知して、

その達成に向けて努力している。また、学科会議などで学科の教員に周知するように努めている。

【機械システム工学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 佐賀大学各種センターの運営委員（教授）
- ・ 高等学校への出前講義（教授）
- ・ 学科内各種委員の担当（全教員）

【電気電子工学科】

- ・ 全学または理工学部、学科内各種委員（全教員）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（全教員）

【都市工学科】

- ・ 理工学部各種委員の担当（全教員）
- ・ 高等学校への出前講義（教授、助教授）
- ・ 省エネ、省資源などの活動に積極的に参加（助教授、助手）

4 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

(1) 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの学科の教授（P）、助教授（AP）、講師（L）、助手（A）について整理したものが下記の表である。

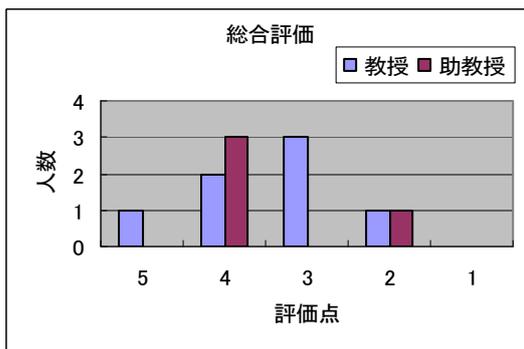
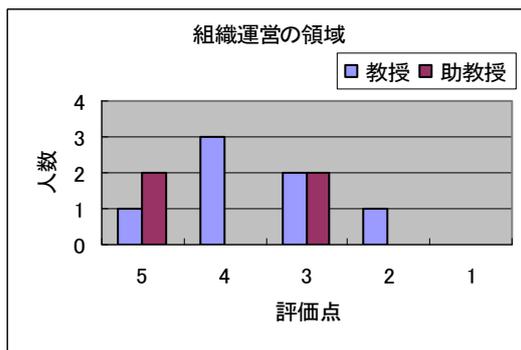
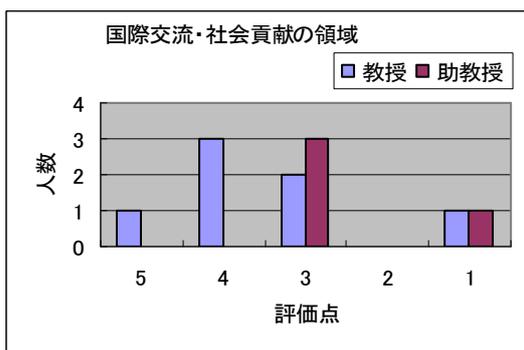
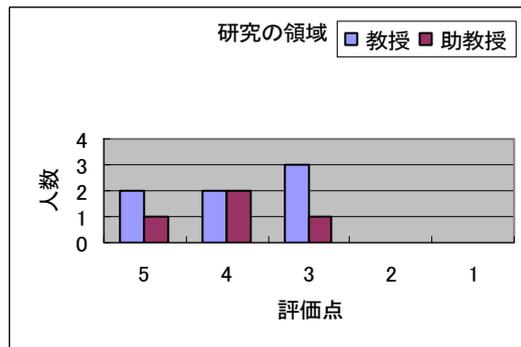
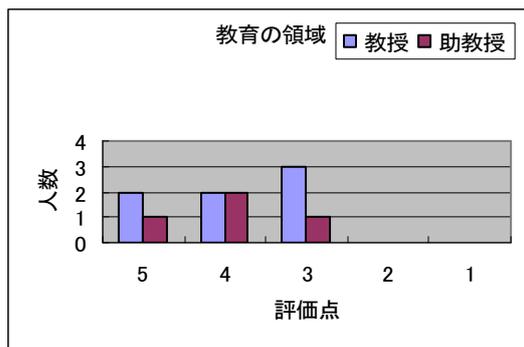
学 科	職 種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会 貢献の領域		組織運営の領 域		総 合 評 価
		評 価 点	達 成 率	評 価 点	達 成 率	評 価 点	達 成 率	評 価 点	達 成 率	
数理科学科	P	3-5	60-100	1-5	10-100	1-5	0-90	2-5	50-90	2-5
	AP,L	3-5	70-90	3-5	70-100	1-3	20-80	3-5	70-100	2-4
物理科学科	P	3-4	50-90	3-5	70-100	3-4	60-80	3-4	60-90	3
	AP,L	2-4	61-90	2-4	60-90	2-4	55-100	2-4	60-90	2-4
知能情報 システム学科	P	3-5	79-100	3-5	65-100	3-5	40-100	5	75-100	3-5
	AP,L	4-5	90-100	3-5	60-100	3-4	70-100	3-5	70-100	3-5
	A	3-4	80-90	3-5	50-100	3-4	40-80	3-5	80-100	3-4
機能物質化学科	P	4	80-100	3-5	70-100	3-5	60-100	3-5	70-100	4
	AP	3-4	80-100	3-4	70-100	3-4	60-100	3-4	70-100	3-4
	A	4	80-100	2-4	50-90	2-3	50-80	3-4	60-100	3-4
機械システム工学科	P	3-4	70-90	3-5	70-95	3-5	70-90	2-5	50-90	3-4
	AP,L	3-5	80-100	3-5	60-100	2-5	40-100	2-5	50-100	3-5
	A	3-5	70-95	3-5	70-95	3-4	60-80	3-4	70-90	3-4
電気電子工学科	P	3-4	70-90	2-5	30-100	2-5	30-100	2-5	30-100	3-5
	AP,L	1-5	20-100	1-5	5-100	2-5	30-100	1-5	20-100	1-5
	A	3-4	75-80	3-4	60-80	3-5	70-90	3-4	60-80	3-4
都市工学科	P	3-5	60-90	3-4	60-85	3-5	70-95	2-5	60-90	2-4
	AP,L	3-4	60-90	3-5	60-95	1-5	0-95	2-4	40-80	3-4
	A	3-4	70-80	3-4	60-90	3-4	70-80	2-3	50-90	3

表中、例えば、(3-4)は評価点、達成率の（最小数－最大数）を表す。

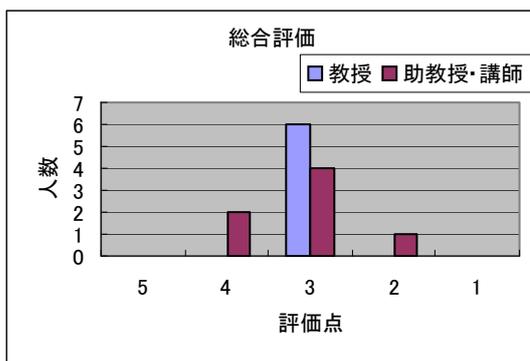
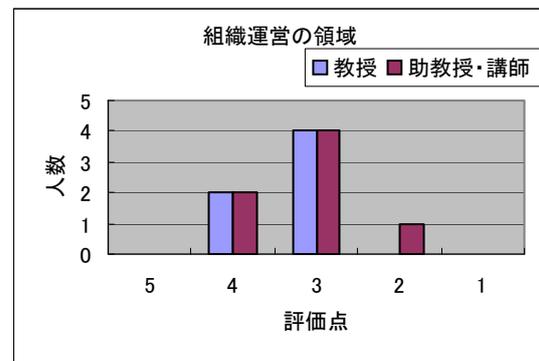
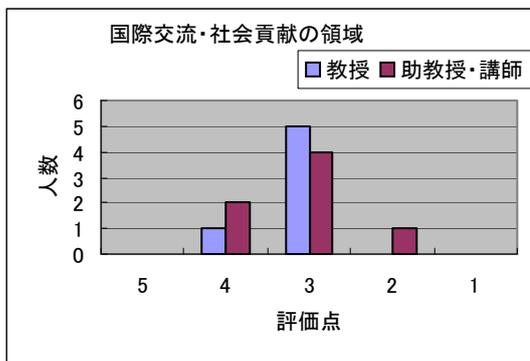
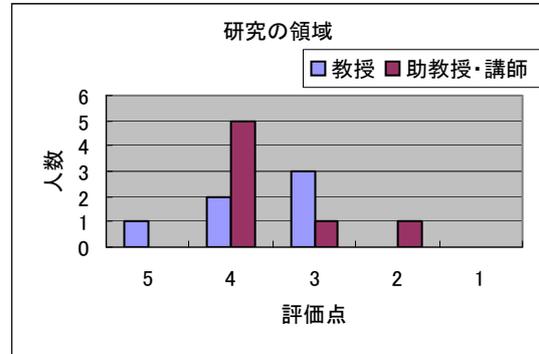
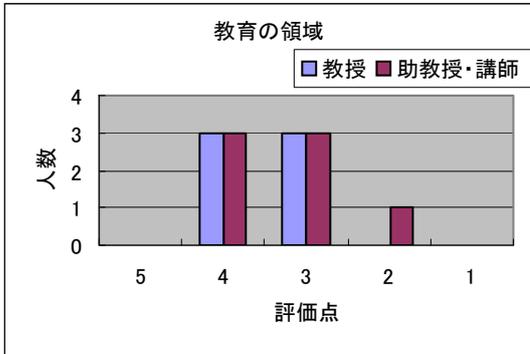
(2) 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

次に、学科毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示している。

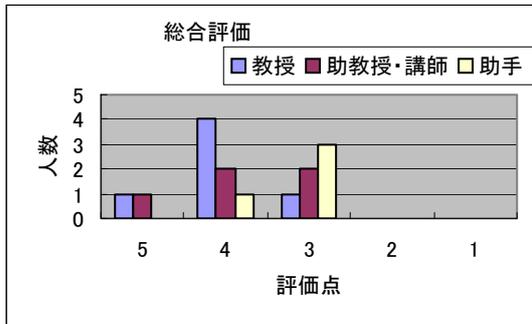
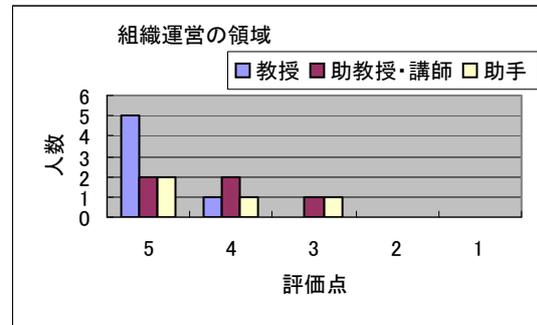
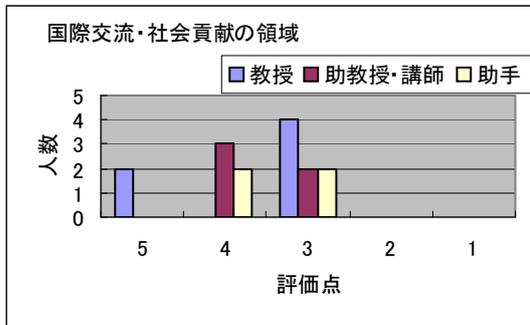
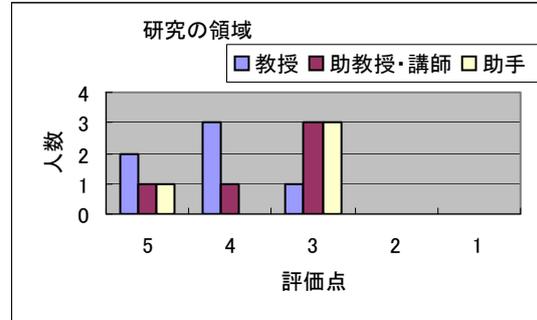
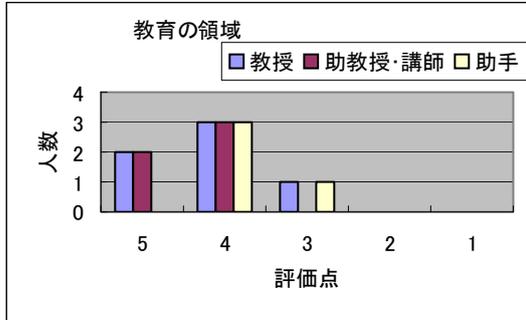
【数理科学科】



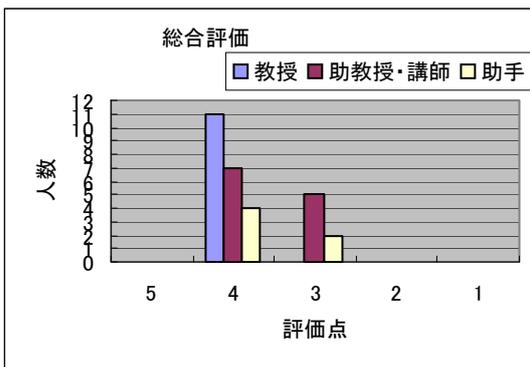
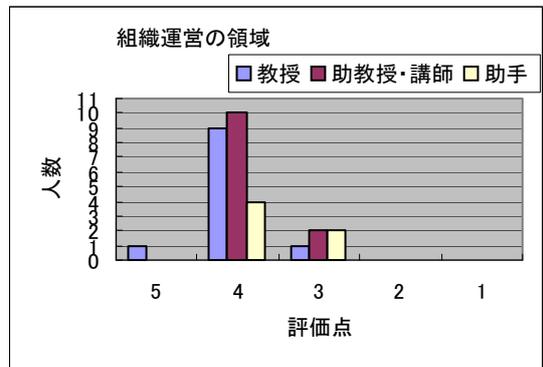
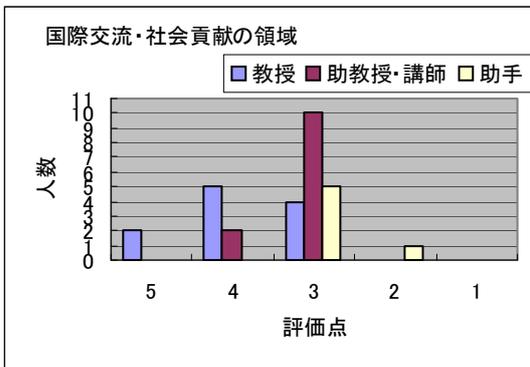
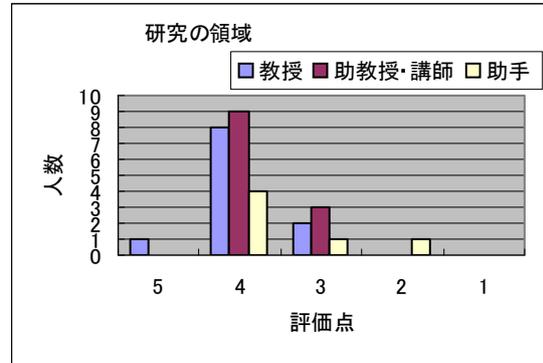
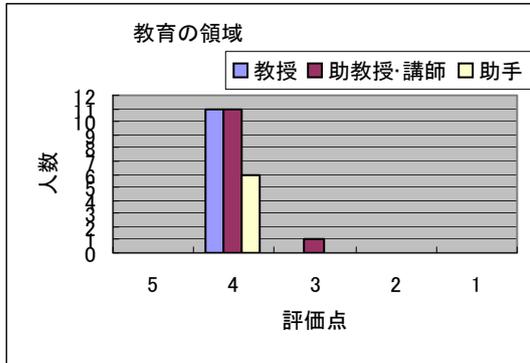
【物理科学科】



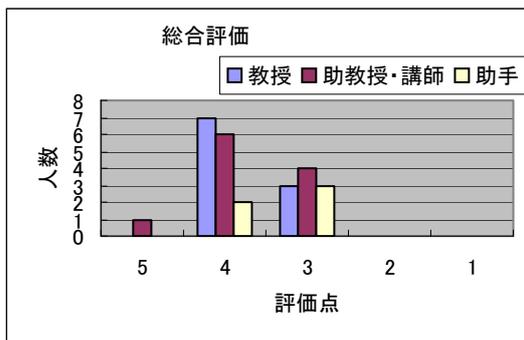
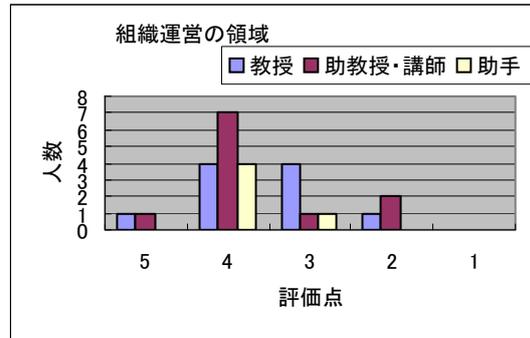
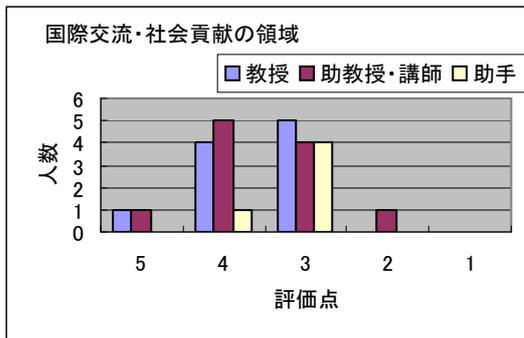
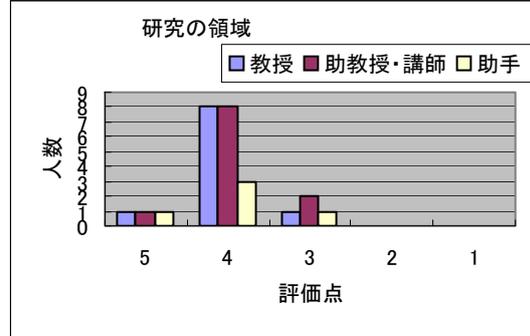
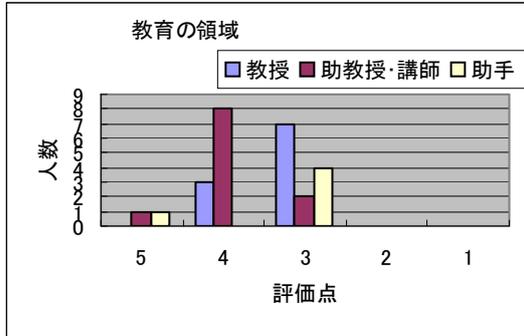
【知能情報システム学科】



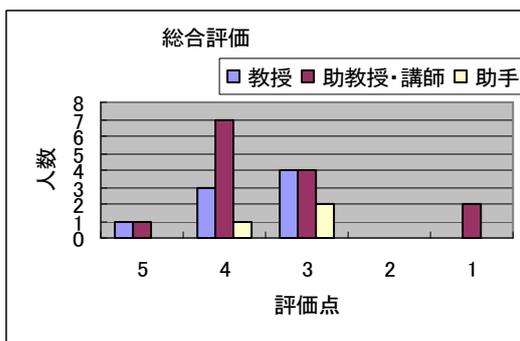
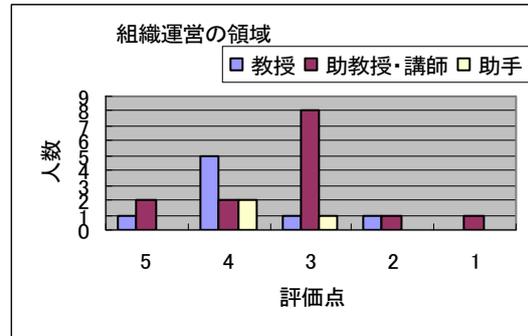
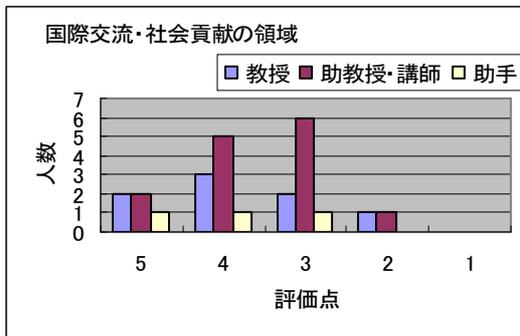
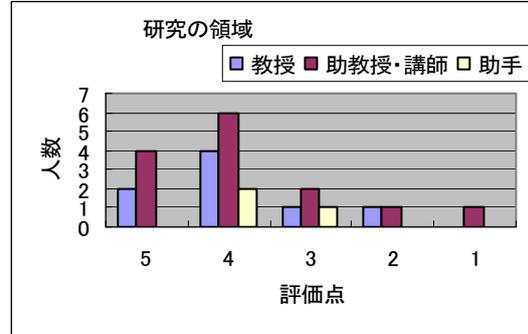
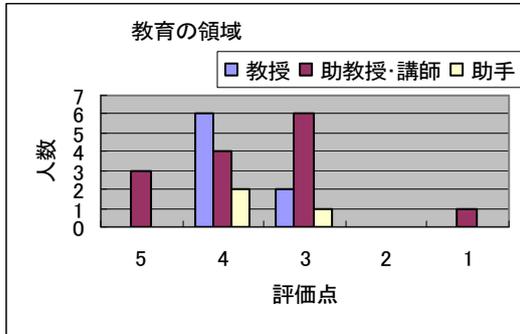
【機能物質化学科】



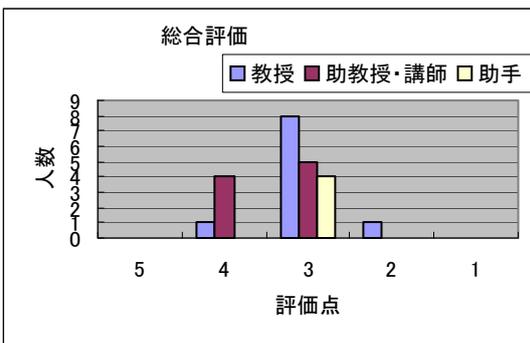
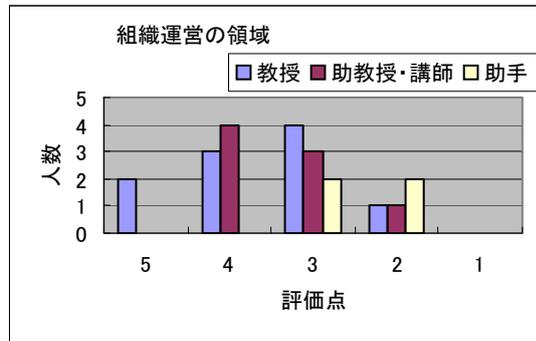
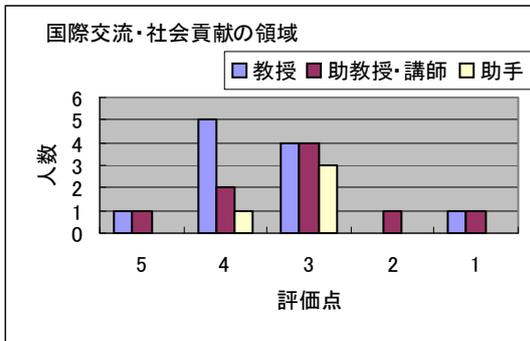
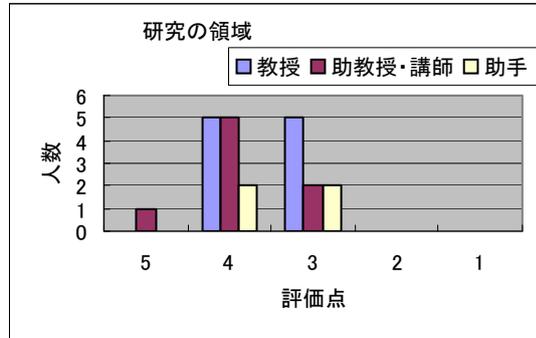
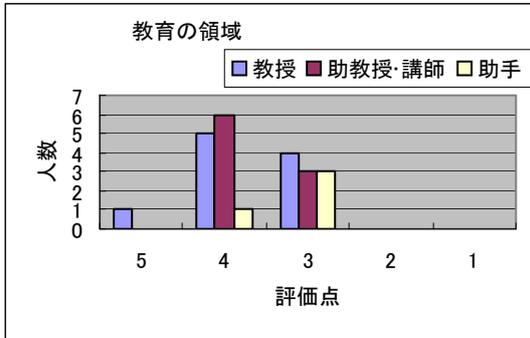
【機械システム工学科】



【電気電子工学科】



【都市工学科】



(3) 評価委員からのコメント

評価委員の試行に関するコメントを以下にまとめる。

【数理科学科】

(1) 本学科については、前回（平成16年度）より適格な自己評価がなされているように思われるが、やはり各個人によって評価点に差があることは否定できない。そもそも評価とは、実績と見識を持つ他者からなされてこそ意味があり、このようなことをする時間を、教育、研究、他大学・外国との交流に少しでも振り分けて、大学の真の活性化に貢献したいという声が多かった。

(2) 前回、今回のフォーマットでは評価点と達成率の数字と内容を分けているが、この2つを別々に書くことは難しいという声があった。達成率の項目をなくした方が、各教員が記述しやすいと思う。

【物理科学科】

(1) 活動実績報告書に関しては、各教員の真摯な対応により、教員の広範な活動状況が報告され、学科の教育、研究、国際・社会貢献、組織運営等における活動が詳細に分かるようになった。しかし、これが毎年度末に発刊される「佐賀大学理工学部広報 ScienTech」と重複するため、資源の有効利用及びより良い実績を挙げるためには ScienTech との一本化が望ましい。

(2) 平成16年度に比べ、全般に改善が見られる。本来は機械的な比較は無意味であるが、目標設定が初年度より多項目より具体的になったことと合わせて考えれば、教員各人の自己改善の努力が窺い知れる。

【知能情報システム学科】

(1) 研究実績を数値から一律に評価することは難しいが、助手の論文発表数が教授、助教授のそれに比べて総じて少ない点について組織的な取り組みが可能であるか否か、検討する余地があると思われる。

【機能物質化学科】

(1) 機能物質化学科では、教員個人がそれぞれ発揮できる領域において優れた成果を挙げており、全体的に見て各領域において学科として優れた貢献をしていると判断できる。

(2) 今後各領域においてさらに特色的な成果を得るよう努力が必要である。たとえば、教育では JABEE に準じた内容ある教育の充実、環境や材料など特色ある研究の発展、アジアに目を向けた国際交流、エコアクションなど安全管理の確立である。

【機械システム工学科】

(1) 各自の評価基準が異なるため、これらの資料を基に第三者が評価を行うことは困難である。

(2) 共著者のある論文では、全体を1として各自の貢献度を明記する必要がある。

【電気電子工学科】

(1) 平成16年度の反省から、各領域について学科独自の目標を掲げ、概ね達成されている。

(2) 各人による評価基準の理解が統一されていないために、この結果を利用した相対評価は困難であった。また、総合評価を低く自己評価した例が幾つかあった。一部の教員は、共著者として論文に貢献しているにもかかわらず、論文数等に加えておらず、評価点「1」としているが、これは過少評価であるので、そのことを考慮すれば、概ね良好な諸活動を実施していると言える。

【都市工学科】

(1) おおむね、全教員まじめに教育、研究、国際交流・社会貢献・組織運営に取り組んでいる。特に教育には熱心であることがよく分かる。しかし、その努力の効果が上がっているのかはよく分からない。

(2) 数名の教員については学科会議や教授会の出席が悪い。もっと積極的に参加し、教職員とのコミュニケーションを計り、学科や大学が抱える問題に対応してほしい。

平成18年度理工学部評価委員会委員名簿

委員長	中 島 晃	(理工学部長)
委員	荒 牧 軍 治	(佐賀大学評価委員会委員)
委員	山 部 長兵衛	(佐賀大学評価委員会委員)
委員	吉 野 英 弘	(教育研究評議会評議員)
委員	渡 邊 訓 甫	(教育研究評議会評議員)
委員	大 石 祐 司	(理工学部教務委員会委員長)
委員	市 川 尚 志	(数理科学科 学科長)
委員	鄭 旭 光	(物理科学科 学科長)
委員	山 下 義 行	(知能情報システム学科 学科長)
委員	北 村 二 雄	(機能物質化学科 学科長)
委員	大 野 信 義	(機械システム工学科 学科長)
委員	西 尾 光 弘	(電気電子工学科 学科長)
委員	鬼 塚 克 忠	(都市工学科 学科長)
委員	林 田 行 雄	(理工学部長指名委員)
委員	北 島 忠 則	(理工学部事務長)